

# 進路だより



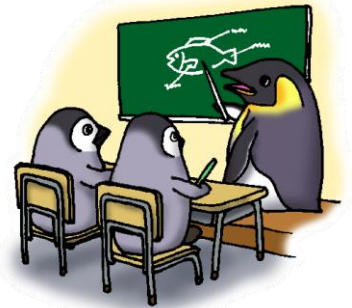
第16号

令和6年10月4日  
新座市立第五中学校  
第三学年進路指導部発行

## ～受験まであと3ヶ月半～

第三回の進路希望調査を行いました。第1志望の割合は、県内公立高校が約63%、県内私立・国立高校が約8%、県外私立・国立高校が約16%という結果でした。

しかし、まだ志望校が固まっていない人も多く、これから本格的に受検校(受験校)を絞っていくことになります。特に県公立高校が第1志望の人は、併願校も決めなくてはなりません。試験がある以上、残念ながら第1志望の高校に合格できない場合も当然あり得ますので、併願する高校は慎重に選ぶ必要があります。そして、私立高校の試験の方が県公立の学力検査より先にあり、その多くは1月22日頃から実施されますので、多くの人が受験まで残り3ヶ月半ということになります。



勉強は続けないと力がつきません。特に受験勉強のように学習する範囲が広がると、成果が出るまでに2～3ヶ月かかります。まだ、あまり計画的に学習が進められていない人も、今からやればまだ間に合います。学習の習慣をしっかりと身につけて下さい。学習の習慣がきちんと身につけている人は、自分の得意・不得意を分析して、それぞれの教科や分野にあった学習をしているか、もう一度見直しましょう。

## ◇私立高校の推薦制度について◇

10月、11月は高校の説明会が数多く予定されています。11月の三者面談に向けて、併願校についても考えることが必要です。また、私立高校では、個別相談も始まっています。私立高校を推薦受験するためには、単願(第1志望)、併願(第2志望)にかかわらず、個別相談会への参加が必要です。高校によっては、個別相談は説明会参加者のみ対象というところもあります。これからは、実際に受験する学校を選ぶという気持ちで、説明会や個別相談会に参加してください。

私立高校には、様々な推薦制度があります。推薦の基準は高校によって様々ですが、通知表の成績や校外テストの結果によって、基準が決まっている学校がほとんどです。

私立高校が第1志望の人は、単願推薦という受験の方法が一般的です。推薦制度がない場合や、推薦の基準を満たしていない場合には、一般単願や第1志望という形で受験する場合があります。いずれにしても「単願」「第1志望」で受ける場合は、それだけ優遇してもらえるということですから、**合格したら必ずその学校へ進学しなければなりません。**

県公立高校が第1志望の人は、併願推薦という受験の方法が一般的です。こちらでも推薦制度がない場合や、推薦の基準を満たしていない場合には一般受験という形になります。併願の場合は推薦で受験しても第1志望の高校に合格すれば、併願の高校には進学しなくてもよいということになります。ただし、延納手続き(手続きをすれば、県公立高校の発表が終わるまで、入学手続きを待ってくれるというもの)が必要な高校もありますので、必ず確認しておいてください。具体的には、併願の私立高校に合格したときに延納金等が必要になる高校がありますし、また、県公立高校の合格発表の当日に併願の高校の入学手続きを終わらせなくてはならない高校もあります。手続きは1日でも遅れてしまうと、合格が無効になってしまいます。各私立高校の募集要項をよく読んで、しっかりと確認しておいてください。

募集要項(願書も入っています)は、そろそろ各高校で配布が始まります。有料の高校と無料の高校がありますが、説明会等で配布されていますので、受験する高校が決まったら早めに手に入れておくと安心です。

私立高校の場合は、単願・併願にかかわらず、個別相談にいけば、合格の可能性を教えてくれる場合がほとんどで、成績の基準に多少足りなくても、個別に相談すれば、『推薦受験して下さい』と言われる場合もあります。また、その学校の推薦制度についても詳しく教えてくれますので、早めに相談会へ足を運んで下さい。公立高校と違い、私立高校の場合は、相談会へ何回も行った方が有利になる場合もあります。

中学校長の推薦は五中の基準があるので、高校の先生に「学校長推薦で受けて下さい」と言われても五中の会議の結果を待ってもらうことになりますが、**自己推薦や保護者推薦については自由に利用して下さい**。ただし、試験であまりにも点数がとれなかった場合や、面接の態度に問題があった場合など、不合格になる場合もありますので、注意が必要です。

また、学校によっては、推薦といっても少し点数を加えてくれるだけで、試験で高得点をとれないと不合格になる学校もあります。さらに、推薦という制度がなく、一般受験だけの高校もあります。このような高校を受験する場合には、できれば他にも併願受験をする高校を選んでおくようにしましょう。

個別相談に参加するときの注意事項としては、成績の基準が少し足りないときに、高校の先生もはっきりと「ダメです」とは言いにくいので、言葉を濁すことがあります。その結果、「推薦受験ができるかどうかよくわからなかった」ということになっては困ってしまいます。もし、よく分からないと感じたら、ハッキリと「推薦受験ができますか？」と聞いて下さい。残念ながら、推薦で受験できなかった場合は、一般受験をするかどうかをよく考えて決めて下さい。また、今後の進路相談をスムーズに行うために、個別相談に行ってきた場合はその結果を必ず担任の先生に伝えるようにしてください。



## ◆ 保護者の皆様へ ～重要なお願い～

日々、お子さまの進路選択のため、高校説明会や体験入学などへ足を運んでくださりありがとうございます。

この度、学校説明会や体験入学などへ参加申込みをされたにも関わらず、高校側への連絡をせずに参加を取りやめてしまうという事が各高校で起こっているそうです。幸い五中にはこのような報告は現在入っておりませんが、このような事が続いてしまいますと、今後受験を迎える五中生全員の印象に関わる可能性があります。また、何よりも説明会等へ参加したくても予約が取れずに参加出来ない方や、高校側に対しても、大変失礼になります。

今後も高校側と信頼関係を保った状態で進路指導を進めて参りたいので、参加申し込みをする際、以下の内容をお守り下さい。

- ・参加申込みをする前に、十分に予定を確認し、必ず参加が出来る事を確認し申込みをする。
- ・やむを得ず、参加が出来なくなってしまった時は、必ず**事前に参加予定の高校へ**その旨の連絡をする。
- ・(あってはならないことですが)参加を忘れてしまった場合は、気付いた時点で大至急、高校へ連絡をする。



ご協力くださいますよう、よろしくお願ひします

